

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2004-231424(P2004-231424A)

【公開日】平成16年8月19日(2004.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2004-032

【出願番号】特願2003-18316(P2003-18316)

【国際特許分類第7版】

C 0 4 B 2/12

F 2 7 B 5/02

F 2 7 B 5/18

F 2 7 B 17/00

F 2 7 D 9/00

F 2 7 D 17/00

【F I】

C 0 4 B 2/12

F 2 7 B 5/02

F 2 7 B 5/18

F 2 7 B 17/00 D

F 2 7 D 9/00

F 2 7 D 17/00 1 0 1 G

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月5日(2004.5.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

本発明は、垂直に配備された耐火物製の伝熱管122に充填された石灰石を移動させながら、燃焼炉20から導かれた1200～1500の高温ガスにより間接的に石灰石(CaCO<sub>3</sub>)を生石灰(CaO)と炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)に焼成分解する焼成帯120と、生成した炭酸ガスを循環使用して高温生石灰を冷却する冷却帯130と、生石灰の冷却により高温となった循環炭酸ガスと焼成帯で生成した高温炭酸ガスにより石灰石を予熱する予熱帯110を備えていることを特徴とする間接加熱式石灰石焼成炉。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項3】

前記焼成帯120で生成した炭酸ガスと冷却帯130より導入された炭酸ガスを予熱帯110上部より吸引し、炭酸ガス冷却器151により常温近くまで冷却して、生石灰を冷却するに十分な量を冷却帯130へ供給する炭酸ガス循環ファン152を具備した請求項1記載の間接加熱式石灰石焼成炉。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

図2は、間接加熱式石灰炉100の詳細図である。間接加熱式石灰炉100は予熱帯110と焼成帯120と冷却帯130と、焼成帯バイパスダクト140と、炉内で発生した炭酸ガスを循環するための炭酸ガス循環装置150で構成され、焼成帯120には内張り煉瓦160が施工されている。